

彼其道是固名也推
 其表為一者是也一者
 何也曰仁也急於救世
 或趨靈無武歸一
 寐憾多中痛乎
 是之極也地之自然
 後至斯又天下集加
 焉
 南陽好玄頌



企画展 紀伊田辺の画家

真砂幽泉

令和2(2010)年 6月13日(土) ~ 7月12日(日)



- 開館時間 9時30分~17時(入館は16時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日
- 入館料 一般280円(230円)・大学生170円(140円)
 ※ ()内は20名以上の団体料金
 ※高校生以下、高齢者(65歳以上)、障害者、
 県内に在学中の外国人留学生は無料
 ※7月5日(日)は無料入館日
- 駐車場 展示室入場者は初めの2時間無料、
 以後30分ごとに100円追加、1日最大700円

主催 和歌山県立博物館
 調査・展示協力 五十嵐公一(大阪芸術大学芸術学部教授)
 有賀西(京都文化博物館学芸員)
 山口奈々絵(兵庫県立歴史博物館学芸員)
 池田泉(大阪大学大学院)
 会場 和歌山県立博物館 1階 企画展示室

*会期中のイベントは予定していません

和歌山県立博物館
<http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>
 〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14 TEL.073-436-8670 FAX.073-423-2467
WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM
 — 和歌山城・南側 —

企画展「紀伊田辺の画家 真砂幽泉」 展示資料目録

番号	資料名	材質形状	員数	年代	所蔵者
第1章 絵画学習から完成作へ 一耕織図屏風を中心に					
1	下絵・絵手本類のうち「倭耕作地取」（整理番号164）	紙本著色	1巻	文化7年(1810)	個人
参考1	耕織図屏風 大岡春卜筆	紙本著色	6曲1双	享保20～宝暦13年 (1735～63)	七宝庵コレクション
2	下絵・絵手本類のうち「大和耕作」（整理番号71）	紙本墨画	12枚	江戸時代	個人
3	耕織図屏風 伝真砂幽泉筆	紙本著色	6曲1双	江戸時代	龍泉寺
第2章 通信教育で学ぶ					
参考2	鶴澤探泉像	紙本著色	1幅	江戸時代	京都学・歴史館（京都文化博物館保管）
4	十月九日付 真砂順蔵宛 鶴澤探泉書状	紙本墨書	1通	寛政9年(1797)	個人
5	七月三日付 真砂幸右衛門宛 鶴澤探泉書状	紙本墨書	1通	文化6年(1809)頃	個人
6	正月十九日付 真砂富右衛門宛 鶴澤探泉書状	紙本墨書	1通	江戸時代	個人
7	二月十五日付 富右衛門宛 探泉書状	紙本墨書	1通	江戸時代	個人
8	下絵・絵手本類のうち 人物・山水・花鳥図（整理番号124）	紙本淡彩	1巻	江戸時代	個人
第3章 京で学ぶ					
9	下絵・絵手本類のうち 琴棋書画図（整理番号46）	紙本著色	4枚	寛政12年(1800)	個人
10	下絵・絵手本類のうち 人物図（整理番号159）	紙本著色	1巻	享和2年(1802)	個人
11	下絵・絵手本類のうち 花鳥・走獸・山水図（整理番号13）	紙本淡彩	1巻	文化4年(1807)	個人
第4章 紀州での活躍					
12	鷹図 真砂幽泉筆 義讓賛	絹本著色	1面	文政5年(1822)	個人
13	下絵・絵手本類のうち 鷹図（整理番号74）	紙本墨画/ 著色	1巻	江戸時代	個人
14	三聖図 真砂幽泉筆 仁井田好古賛	紙本淡彩	1幅	天保4年(1833)	個人
15	下絵・絵手本類のうち 三聖図（整理番号52）	紙本淡彩	1枚	江戸時代	個人
16	南紀男山焼 染付竹鶴図筒花生	磁器	1口	天保4年(1833)拝領	個人
参考3	虎図襖	紙本墨画	2面	江戸時代	普大寺
17	下絵・絵手本類のうち 虎図（整理番号61）	紙本墨画	2枚	江戸時代	個人
18	巍得院幽泉居士之像 木下幽山筆 義讓賛	紙本著色	1幅	天保7年(1836)	個人
19	下絵・絵手本類のうち冊子「禁他借」（整理番号44）	紙本墨画/ 著色	1冊	江戸時代	個人
20	印章 真砂家所用	石製	14顆	江戸時代～明治時代	個人

※「参考」と記している資料は、写真のみの展示です。

※展示資料は予告なく変更することがあります。

真砂幽泉 略年譜（出陳品・画歴中心）

和暦	西暦	干支	月日	幽泉年齢	事項
明和7年	1770	庚寅	12月5日	1	父・新左衛門友穎と母・道の長男として田辺領三栖に生まれる。
寛政元年	1789	己酉	7月28日	20	親代番役の仰せを受ける。
寛政5年	1793	癸丑	1月	24	狩野探幽筆「唐耕作之図」を模写する。
寛政6年	1794	甲寅	11月	25	徳川治宝（紀伊藩10代藩主）熊野参向。5日、帰駕の折に芳養下村にて御目見を仰せ付けられる。
寛政10年	1798	戊午		29	紀伊藩家老小守十之右衛門が田辺に来る。絵師を仰せ付けられるが辞退する。
寛政12年	1800	庚申		31	京都にて「 琴棋書画図 」【9】などを模写。
享和元年	1801	辛酉		32	影見王子社（田辺市）の再建にあたり彩色を担当。
享和2年	1802	壬戌	春	33	京都にて「 人物図 」【10】などを模写。
享和3年	1803	癸亥	4月13日	34	親跡三栖組大庄屋本役の仰せを受け家督相続。
文化4年	1807	丁卯	5月	38	京都にて「 花鳥・走獸・山水図 」【11】などを模写。
文化7年	1810	庚午	5月	41	「 倭耕作地取 」【1】を模写。
文化10年	1813	癸酉	3月	44	徳川重倫（紀伊藩8代藩主）へ布袋、龍田川の図を献上。
			4月		徳川重倫へ人物山水図を献上。
文政元年	1818	戊寅	8月	49	重倫の奥女中より、西方寺を通じて是徳上人など肖像画の作成を依頼される。
文政4年	1821	辛巳	4月	52	鬪雞神社（田辺市）の能舞台絵を制作。
文政5年	1822	壬午	1月	53	義讓賛「 鷹図 」【12】を制作。
文政6年	1823	癸未	12月19日	54	朝来組大庄屋兼役。
文政7年	1824	甲申	8月	55	朝来組大庄屋兼役御免。
文政8年	1825	乙酉	5月18日	56	徳川斉順（紀伊藩11代藩主）入部に付き御目見。
天保2年	1831	辛卯	5月		中三栖下組講中より奉納の「鶴退治図」絵馬を制作。
			12月27日		願により大庄屋役御免。御画師御用人支配を仰せ付けられる。
天保3年	1832	壬辰	12月	63	田辺領主安藤家子女と加納大隈守の縁組に際し、松竹梅図作成の仰せを受ける。
天保4年	1833	癸巳	2月	64	松竹梅図屏風が完成。
			8月		仁井田好古賛「 三聖図 」【14】を制作。
			10月		鶴、雪中梅、寿老人の画を徳川治宝へ献上。
			12月21日		西浜御殿にて治宝の嘉賞をうけ 南紀男山焼花生 【16】などを拝領。
天保6年	1835	乙未	10月17日	66	没。法名、巍得院深誉幽泉居士。
天保7年	1836	丙申	4月または5月		木下幽山が、幽泉の肖像画を描く。

※この年譜は、和歌山県立博物館編『真砂幽泉展 田辺が生んだ狩野派の絵師』（和歌山県立博物館、昭和48年）、および辰巳充編『特別展 真砂幽泉展』（田辺市立美術館、平成21年）所載の年譜をもとに、和歌山県立博物館にて共同で行った調査の知見を交えて、池田泉（大阪大学大学院）が作成し、当館学芸員袴田舞が展示用に編集した。

※この企画展に出陳した資料は太字とし、展示番号を【 】で付した。

真砂家資料（下絵・絵手本類）調査について

真砂家に伝わる下絵・絵手本類は 596 点あります。この膨大な資料の情報を整理するために、専門家が集まり協力して調査を行っています。ここでは、その方法や意義を紹介します。

【調査の目的】

真砂家の資料は、真砂幽泉が学んだ鶴澤派を中心として、江戸時代の絵画教育や絵画制作を研究するうえで重要な資料群と考えられます。この資料について広く情報を提供し、鶴澤派および近世絵画に関する研究を進めるために調査を行っています。

【調査の方法】

調査ではおもに調書作成と写真撮影を行います。

○調書作成

先人が資料に付けた整理番号をふまえて、それぞれの資料に描かれる主題や書かれている文字（年代や原本作者の署名など）、資料の材質、寸法などの基本情報を記録します。

○写真撮影

各資料の全体像、細部等を撮影します。資料を撮影する際には、資料の整理番号の札を写し込み、調書との対応関係が一目でわかるようにします。

【調査の意義】

今回の調査対象の中で多くを占めるのは、折りたたまれたり、巻物状に巻かれたりしている資料です。資料の内容を確認するためには、これらを一点一点広げることになりますが、紙を素材とするこれらの資料は傷みやすく、慎重に取り扱わなければなりません。調査によって資料の基本情報と画像を蓄積することで、今後、資料を直接とり扱う機会を最小限にとどめ、資料にかかる負担を軽減することができます。また蓄積された情報を、展示や出版物などを通じて多くの方々と共有することで、美術史や地域史研究の進展に寄与することが期待されます。

このように資料の良好な保存状態を守りつつ、資料を研究や学びに役立てられるようにする点に文化財調査の一つの意義があります。

（山口奈々絵）